

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



※この写真は、全て園内で撮影したものです。四季折々の植物を中心に、子どもの作品なども被写体になっています。

六月 十三日 (木ようび)

●シャボン玉やあわ遊びが大人気！

●大きいの作りたいな！やさしくすればできるんだぞうです！

●あわをスレンドしてスーフかな？「おかわりもあります！」

園研究スタート！研究保育は年中組から

幼児教育センター主催の新採用・中堅教員研修会がありました！

大分県は、幼児教育の振興をめざして、今年度より「幼児教育センター」を設置しました。同センターの目的は、幼児教育・保育に携わる先生方のための研修・支援・情報発信等をマネジメントし、県全体の保育の質を向上させることです。本園は、これまででも、そしてこれからも、養成機能を有する地元大学の附属園として、大分県、「幼児教育センター」と連携・協力して参ります。

早速、新採用者や中堅教職員の研修として、6月11日に70名ほどの研修生が来園しました。保育を参観した後、本園の担任らと共に、見取った子どもの姿から、



さまざま視点で環境や援助について検討し、互いの学びを共有していました。

本園職員にとっても、自分の保育を見つめ直すとても良い機会になっていたようでした。

「ソサエティ5.0」とは？

今時なのでネットで検索すればその意味は即座にわかりますが、「ソサエティ 5.0」は、日本が提唱する未来社会のコンセプト、政府のキャッチフレーズです。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指しています。IoT（Internet of Things）やAI（人工知能）などの最新テクノロジーを活用した便利な社会のことです。

Society 5.0では、ビッグデータを踏まえたAIやロボットが今まで人間が行っていた作業や調整を行・支援するため、日々の煩雑で不得手な作業などから解放され、誰もが快適で活力に満ちた高い生活を送ることができるようになるそうです。ニューヨーク市立大学のキャシー・デビッド教授は「2011年に小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く」という説を発表しましたが、そのような社会に生きていく子どもたちに必要な能力とは何かを、今、教育界は必死に考えているのです。

PIA活動は、大きく分けて2つの活動から成っています。義務や責任を伴う活動と、自由参加が基本の活動です。どちらも、行き着くところ子どもたちのためという基本は共通ですが、「親の役割」の捉え方が少し違います。少子化時代の今は、「子どもは、大人がみんな協力して育てる」という考え方が必要です。親としての最低限の義務は果たしつつ、プラスアルファは、今できる人が、できる範囲で、園や学校に力を貸す。そんな仕組みが、とても有り難いです。

本園のPIA活動のあり方は双方あって、しかもバランスがいいと思います。今年度も、くすのき会やサークルの活動がスタートしています。宜しく願います。



附属幼稚園は、サークル活動やくすのき会の自由さが絶妙の塩梅！